

十三

立案

大正十一年十一月十日

決裁大正年月日

宗秩寮總裁

宮内事務官

大臣

次官

後任勲功に於ける特許
敘位ノ件

大正十一年十一月九日
臺帳記入 月十日官報報告済

宮内省

(三十六)

十三

大正十四年一月九日
大正十四年一月九日

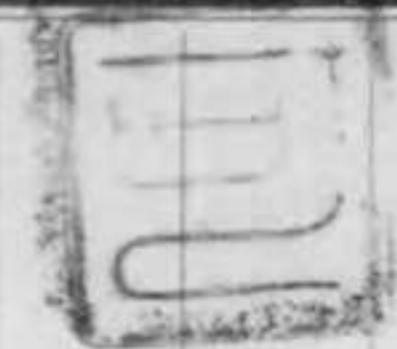
大正

大正

大正十四年一月九日

大正十四年一月九日

大正十四年一月九日

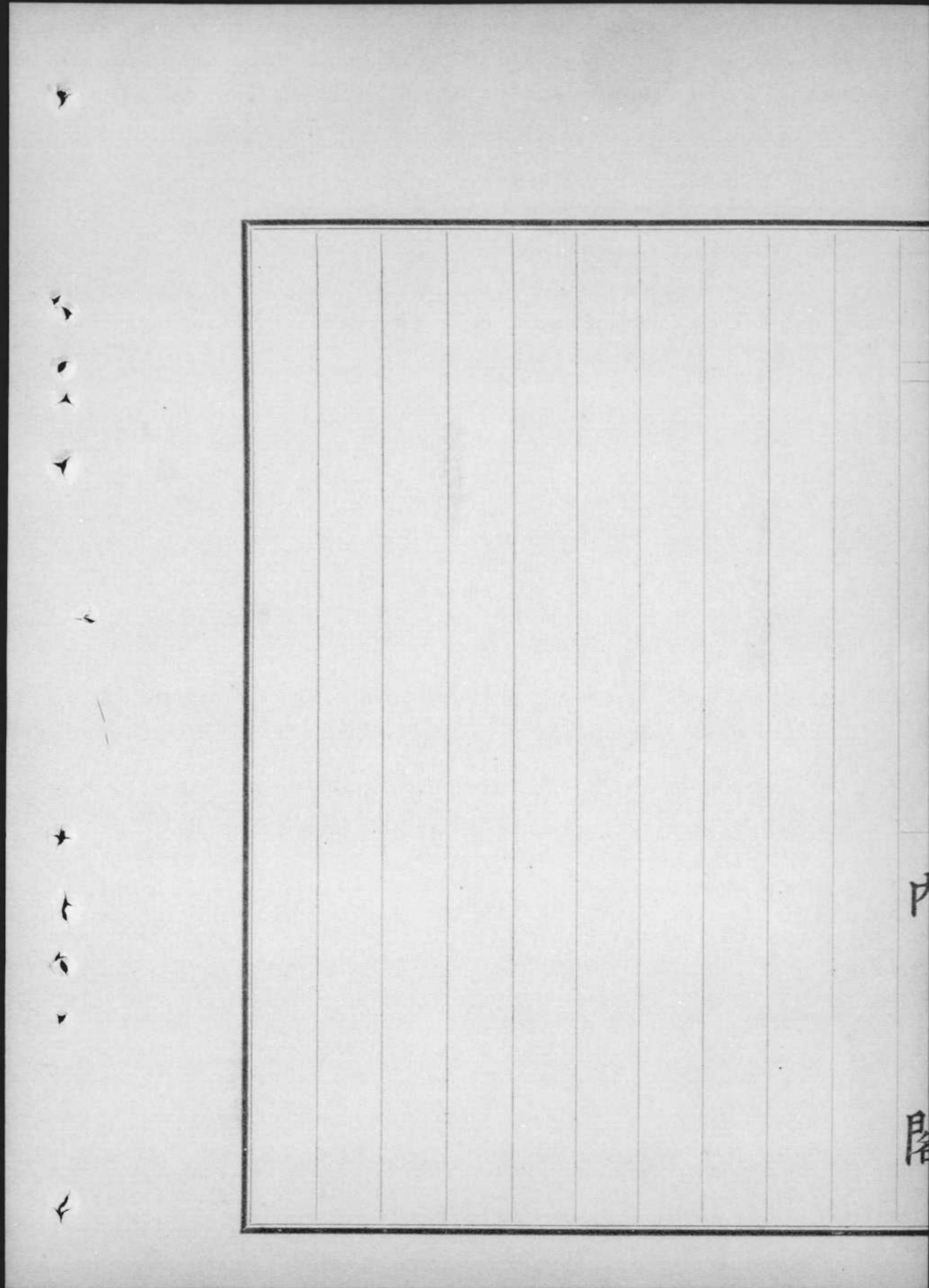


從三位勲二等村田保特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年一月九日

内閣總理大臣子爵加藤高明





内

月

農位第六號

起 案 第十一年一月九日

裁可 十月九年一月九日 施行 年月日

内閣總理大臣

印

内閣書記官長

印

内閣書記官長

印

従三位勲一等村田保、別紙功績書並農
商務大臣稟請、通功勞顯著ノ者ニシテ
殊、多年貴族院議員トシテ立法、府ニ參與
シ且我邦塩業其他一般水産業、改良發
達、爲ニ盡瘁ニタル功績洵ニ顯著ナルモ、

内閣

有之候處目下病氣危篤ノ趣ニ付此ノ
際特旨叙位ノ件上奏相成然ルヘシ

従三位勲一等村田保

特旨ヲ以テ位一級被進

従三位勲一等村田保

叙正三位

功績書

從三位勳一等 村田 保

右者明治元年鎮守府兼昌平學堂ニ
出仕シ翌年同教授試補ト為リ後
刑部權大祿、大政官少書記官、大
書記官、内務大書記官、元老院議官
ヲ歴任シ次ヲ高等法院豫備裁判
官ヲ經テ明治二十三年九月貴族院
議負ニ勅選セラレ又錦鷄向祇候
タリ後大正三年三月勅、依リ議負

大藏省

及錦鷄向祇候ヲ辞ス三十年十月
特旨ヲ以テ從三位ニ叙セラレ明治三
九年四月日露事件ノ功ニ依リ勳
一等瑞寶章ヲ授ケラル是レヨリ先
英獨ニ留學シ明治十五年大日本
水産會ノ創立ニ當リテハ全國ヲ
巡歴シ水産思想ノ普及ニ努力
盡瘁シ視ニ同會副總裁タリ
明治二十五年水産調査所ニ於テ
各種ノ水産事項ヲ調査セル研究

事項中塩業ニ関スル研究ハ重大ナル項目ナリ加之日清戦争前後ニ於テハ内地塩業ニ対シ外國塩ノ輸入問題喧シク且ツ台湾領有以後其天日製塩ト内地製塩トノ均衡ヲ保ツコトハ緊急問題トナリ之レカ為ニ内地塩ノ改良生産費ノ節減ノ必要^ニ辯クヘカラスル形勢トナレリ同人ハ此機ニ於テ率先大日本塩業協會ヲ組織シ小松宮殿下ヲ

大藏省

總裁ニ推戴シ推サレテ其ノ會長ト為リ爾來專ラ塩業ノ改良發展ニ盡瘁シタリ明治三十二年第十二議會ニ於テ塩業ニ関スル建議案ヲ貴族院ニ提出シ本邦塩業ノ改良ヲ新行セサルヘカラスルカ故ニ塩業調査所ヲ新設シ経験アル実業者ヲ網羅シ十分研究ノ上塩業上ノ模範ヲ示スノ必要アリト力説シ議會ハ大多数ヲ以テ之ヲ了決シタリ茲ニ於テ

政府ハ塩業調査會規則ヲ發布シ
同人ヲ塩業調査會長ニ任命シ
貴衆兩院議員、水産局長、技師
塩業者ヲ委員トシ諸種ノ調査研
究ノ結果政府ハ明治三十二年ニ於テ
塩業調査所ヲ設置シ技師ヲ派遣シ
テ諸外國ノ塩業ヲ調査セシメ殊ニ
末岡カナヲ式製塩方法ヲ採用シ
其ノ他諸種ノ試験ニ從事スルニ至レリ
其ノ後明治三十六年官制改正セラレ

大 藏 省

塩業調査所ハ廢止セラレタルモ其調査
研究事項ハ同人ヲ會長トスル大々本
塩業協會ニ於テ之ヲ継承シテ其ノ
試験場ヲ經營シ内地塩業ノ為ニ盡
瘁シ遂ニ明治三十八年塩專賣法ノ
施行ヲ見ルニ至レリ

之ヲ要スルニ今日塩專賣法施行ノ下
ニ於テ明治三十年以前ニ於ケル衰頹
起リ能ハサル内地塩業ヲ回復シ塩配給
ノ圓滿ト塩業ノ改良ヲ遂行スルヲ得

セシメ澳業、工業、醸造其他産業上
及一般消費者ニ対シ塩供給上ノ安
定ヲ得セシメ大正六七年ノ如キ内地
塩大凶作ノ場合ニ於テモ外塩ノ輸
入等塩配給ノ調節ヲ圓滿ナラシメ
一般消費者ハ勿論産業上何等危
惧ナカウシメタルノ功績實ニ偉大ナリ

大 藏 省

裏面白紙

大正十四年一月六日

大藏省 濱口雄幸



由事務総長大臣子爵加藤高明殿

從三位勳一等旭日親王、檢業二
關及功績調査致仕ノ通有ル也

大藏省

叙正三位

從三位勲一等 村田

保

右者夙ニ身ヲ官界ニ委不刑部權大録、大政官少書記官、大政官大書記官兼内務大書記官、元老院議官等ニ歷任シ明治二十三年貴族院議員ニ任セラレ大正三年依願貴族院議員ヲ免セラル此間或ハ刑法草案審査委員、治刑法草案審査委員、民法商法施行取調委員法律取調委員、法典調査會委員等ニ選マレ我國法典、制定ニ盡力スル所アリ又水産調査委員

農 商 務 省

會委員長、水産調査會會長、第二回水産博覽會審査官長、塩業調査會會長等、要務ニ就キ精励恪勤我邦水産業、榮達ニ貢獻セシ所洵ニ顯著ナルモアリ就中大日本水産會、創立、水産調査會、設置、水産博覽會、開催等ニ斡旋盡力セシカ如キ或ハ大日本水産會幹事長柳猶悦、歿スルヤ其、任ヲ継キ奮励努力水産業、振興ヲ圖リ傍ラ水産傳習所長ヲ兼ネ子弟、教養ニ盡力セシカ如キ又明治二十六年水産會、設ケラル、ヤ委員長トナリテ各種、諮問案ヲ審

議答申_レ或ハ地方官會議ニ於テ水族蕃殖
保護、必要、遠洋漁業、獎勵、海外貿易、振張
等ヲ提唱シ又貴族院ニ於テ漁業法案ノ提出
水産保護ノ建議等ヲ為シタルカ如キ、又第四回内
國勸業博覽會、第二回水産博覽會開催ニ際
シテ水産部長、審査官長等ニ奉ケラレテ其ハ職務
ニ盡カセシカ如キ功績洵ニ著大ナリ其他塩業調査
會々長ニ奉ケラレテ斯業ノ保護兼達、努メ明治
二十七八年事件ニ際シテ水産傳習所長トシテ軍需
品、調達ニ盡カシ、罐詰聯合會々長ニ奉ケラレテ
又克_ル斯業ノ改良兼達ヲ圖ル等、我邦水産ノ蕃
殖斯業ノ兼達ニ関シ勲勞功績顯著ナルモノ
ニ候處過般未_レ病氣ニ罹リ目下危篤、瀕_レ居
リ候ニ付テ此際頭書、通_リ位階進叙、御詮議
相成度別紙履歷書相添此段及稟請候也

大正十四年一月九日

農商務大臣 高橋是清



内閣總理大臣子爵加藤高明殿

履歷書

神奈川縣鎌倉大町

村田保

旧名淺原虎之助

天保三年十一月十九日生

一明治元年十一月二日 鎮守府附被仰付 昌平

學校へ出仕申付候事 (辨官事)

一同二年一月二十日 教授試補被仰付候事 (

昌平學校)

一同三年一月二日 任刑部權大録 (刑部省)

一同四年一月二十三日 刑律為質問英國 (差遣候

事 (大政官)

一明治十年一月十八日 任少書記官 (大政官)

一同年十二月二十五日 刑法草案審査委員被仰

付候事

一同十三年五月五日 御用有之獨逸國 (差遣)

候事

一同十五年九月七日 任太政官大書記官無内務

大書記官

一同十八年四月二日 任元老院議官 三等官相

當年俸三千円下賜候事

一同二十三年九月三日 貴族院令第一條第四項 (

依り貴族院議員ニ任ス

一同年十月二十日 錦鷄間祓候被仰付候事 (

宮内省

一同二十四年三月三日 勲二等叙シ瑞寶章ヲ賜
候事 (賞勳局)

一同二十五年十月七日 民法商法施行取調委員被
仰付 (内閣)

一同二十六年四月二十日 水産調査委員會委員長
被仰付 (内閣)

一同二十九年一月二十日 第四回内國勸業博覽會
審査官兼務被仰付 (内閣)

一同四年四月二十日 第四部長ヲ命ス (第四回内
國勸業博覽會事務局)

一同年五月十五日 水産調査會々長被仰付 (内閣)

一明治二十九年三月二十六日 多年水産ノ業ニ竭力シ

明治二十八年第四回内國勸業博覽會日ニ勤勉
シ其勞効顯著ナルヲ以テ廿監授褒章ニ銀盃

壹組副賜候事 (賞勳局總裁)

一同年四月二十三日 第二回水産博覽會審査
官長被仰付 (内閣)

一同三十年十月二十六日 叙從三位 特旨ヲ以テ位
一級被進 (宮内省)

一同三十一年六月二十九日 法典調査會委員ノ職ヲ
奉シ盡力不盡ニ付 銀盃壹組ヲ賜フ (賞
勳局總裁)

一 同年八月十五日 塩業調査會々長被仰付
(内閣)

一 同三十四年六月九日 第五回内國勸業博覽會
評議員被仰付 (内閣)

一 同年七月二十九日 第五回内國勸業博覽會
審査第三部長被仰付 (内閣)

一 同三十四年六月九日 法典調査會委員ノ職ヲ
奉ニ盡力不甚依而金盃一組ヲ賜フ (賞
勲局總裁)

一 同年十二月十四日 授旭日重光章 (賞勲局)
一 同四十年九月二十日ニ於テ明治三十九年四月一日附明
治三十七八年事件ノ功ニ依リ勲一等瑞寶章

ヲ授ケ賜フ

一 明治四十年六月六日 日本大博覽會評議員被
仰付 (内閣)

一 同四十二年四月十九日 日英博覽會評議員被
仰付 (内閣)

一 大正三年三月十六日 依願貴族院議員ヲ免ス
(内閣總理大臣) 依願錦鷄間祇候ヲ免
ス (宮内省)

一 同年三月二十三日 依願法律取調委員被免 (内閣)

以上

明治四年二月二十五日 新律綱領編修成功ニ付御賞
典金貳千疋白絹壹疋下賜候事

同七年六月十四日 刑法取調專務(左院)

同十年十二月二十五日 刑法草案審査委員被仰付
候事

候事

同十二年十月二十四日 治罪法草案審査委員被仰
付候事

付候事

同十三年三月三日 法制部專務被仰付候事

同二十年十月四日 法律取調委員被仰付(内
閣)

閣)

同二十六年四月十三日 法典調査會主査委員被
仰付

仰付 (内閣)

明治二十七年三月三十日 法典調査會委員被仰
付

付 (内閣)

めくれず

裏面白紙

貴庶第六號

大正十四年一月八日

貴族院書記官

長

世

吉



内閣書記官 長谷川 耕 夫 殿

元本院議員村田保危篤ニ陥リ候ニ付テハ相當恩賞方ニ關シ農商務省ヨリ上申セラルルヤニ聞及候處貴族院議員トシテモ初期以來大正三年三月迄在職シ功績不尠ト存候ニ付爲御參考履歷書寫及送付候間可然御取計被下度此段申進候

貴族院

履歴書

105

東京府士族

條十三年貢士青其堂

村田保

明治九年 十月二日	鎮將府附被仰付候事	鎮將府
己巳 正月廿四日	教授誠補被仰付候事	昌平學校
己巳 六月	以本官利法官へ出仕被仰付候事	同
己巳 七月	改昌平學校稱大學校	同
己巳 七月	任少助教	同
己巳 七月	改大學校稱大學	同
己巳 八月二日	任權大録	同
己巳 正月廿三日	刑律為質問英國へ差遣候事	刑部省
己巳 二月廿五日	新律細則編修成功へ御賞典金貳千五百 兩壹足下賜之事	刑部省
己巳 七月九日	廢刑部省置司法省	司法省
己巳 八月十五日	任權大録	同
己巳 九月廿七日	歸朝	同
己巳 一月廿五日	任權大解部	同
己巳 三月	任大解部	同
己巳 二月十四日	任五等議官	同
己巳 六月十四日	叙正七位	同
己巳 七月十四日	補七等出仕	正院
己巳 七月十五日	補大等出仕	同
己巳 九月十五日	任三等法制官	同
己巳 十月十四日	叙從六位	同
己巳 一月十八日	任太政官少書記官	同
己巳 十月十九日	法制局專務被仰付候事	同
己巳 十月廿五日	刑法草案審査委員被仰付候事	同
己巳 十月廿四日	治罪法草案審査委員被仰付候事	同

全年十二月二日	任太政官權大書記官	
今日七日	叙正六位	
今日七日	兼任外務權大書記官	
全年三月三日	法制部事務被仰付候事	
全年五月五日	御用有之獨逸國へ差遣候事	
全年七月七日	未十四日六月中歸朝可致候事	
今日廿日	刑法並治罪法草案審査事務勉勵候事付為 耐心別紙日録之通下賜候事	
全年三月十日	一紅白縮緬 三匹	
今日	刑法草案審査委員被免候事	
全年七月廿六日	治罪法審査委員被免候事	
全年十月廿五日	歸朝	
今日	任參事院議官補	
全年十月廿八日	四等官相當月俸二百五拾圓下賜候事	
	叙從五位	
貴族院		
全年六月十七日	叙勲五等	
全年九月七日	任太政官大書記兼内務大書記官	
今日	取調局長申付候事	内務省
今日廿七日	中央衛生會委員被仰付候事	
全年十月四日	取調局長差免内局事務取扱申付候事	同
全年十一月十八日	御用有之九之縣へ巡迴申付候事	同
	福岡縣長崎縣熊本縣鹿兒島縣大分縣 今般巡迴申付候事付三別紙心得條目相渡候事	
	巡迴心得條目	
	一府縣備荒儲蓄共助郡区町村會之事	
	但府縣會共常置委員會ハ勿論区町村會 開會向有之候ハ便宜臨會委員況ヲ領知 スハナリ	
	一土木之事	
	但治水等工事ノ景況ハ勿論水利土功會	

開會、向有之候ハ、便宜臨會又ハ、廉立
タル工事着手、向有之候ハ、實地巡見ス
ハキ事

一衛生事務施行之事

但衛生會開會、向有之候ハ、便宜臨會
スハキ事

一警察裁判關係之事

一政黨之事

但演說集會、景況視察スハキ事

一土族之事

但檢査金拝借者事業盛衰、景況及生計
、概況等實地ニ就視察スハキ事

一博徒取締之事

但無産無賴人、景況

一中學校専門學校之事

貴族院

但青年者教育ノ方向等寫ト視察、事

一物産興發盛衰之景況

一物價下落ニ付會員富一般、景況

一銀行諸會社之景況

一昨十五年第六十一號第六十二號第六

十三號布告後、景況

歸京

今年五月廿六日
今年八月一日

免兼官

今日 兼任元老院大書記官

今日 調査課勤務申付候事

元老院

今年四月二日

任元老院議官

三等官相當年俸三十四下賜候事

今年六月五日

叙正五位

今年七月九日

叙勳四等

今年三月九日

元老院議官等年俸改正

全年十月廿八日	叙勲三等賜旭日中綬章	内閣
全年十月廿八日	叙從四位	内閣
全年十月廿八日	叙勲三等賜旭日中綬章	内閣
全年十月廿八日	法律取調委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	明治二十二年八月三日勅令第百三十三号、上旨依 、大日本帝國憲法發布記念章ヲ授與ス	内閣
全年十月廿八日	高寄法院豫備裁判官被仰付	内閣
全年十月廿八日	貴族院令第卅第四項ニ依リ貴族院議員ニ 任ス	内閣
全年十月廿八日	元老院ヲ廢ス	内閣
全年十月廿八日	今般元老院廢止ニ附キ廢官、輩ハ總 前官、非職ト心得ヘシ	内閣
全年十月廿八日	錦鷄間祓候被仰付	中右衛門
全年十月廿八日	在職中格別勲励ニ附キ其賞トシテ別紙目 録、通下賜ス	内閣
全年十月廿八日	但金八百圓	貴族院
全年十月廿八日	依願免本官	内閣
全年十月廿八日	叙勲三等賜瑞寶立章	内閣
全年十月廿八日	法律取調委員被免	内閣
全年十月廿八日	民法商法施行取調委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	法典調査會主任委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	水産調査委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	第四回内國勸業博覽會評議委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	水産物實況視察ノ多ク開西聯合水産共進會 ハ臨場ヲ囑託ス	農商務省
全年十月廿八日	法典調査委員被仰付	内閣
全年十月廿八日	叙正四位	内閣
全年十月廿八日	第四回内國勸業博覽會審査官兼務被 仰付	同
全年十月廿八日	第四部部長ノ命ス	同

今年三月廿一日	兵庫縣下水族部へ出張ヲ命ス	同
今年四月三十日	第三部業務ヲ命ス	同
今年五月十五日	水産調査會會長被仰付	内閣
今年五月廿六日	多年力ヲ水産改良終殖ニ竭シ明治三十八年水産調査會會長ヲ爲リ尋テ水産調査會會長ト爲リ屢々各地ニ行走シ明治廿九年第四回内國勸業博覽會評議員ト爲リ尋テ審査官ヲ兼テ第四部長ヲ擔任シ所屬審査官、分官ヲ選定監督シ物品、審査業務ノ整理共ニ能ク舉リ其功効顯著ナリトス仍テ明治十四年十月七日勅定、藍綬褒章ヲ賜ヒ之ヲ表彰ス	賞勳局
今年四月廿三日	多年水産、業ニ竭カシ明治三十八年第四回内國勸業博覽會ニ勲勉シ其功効顯著ナルヲ以テ藍綬褒章ニ銀杯一組副賜ス	同
今年三月廿六日	第七回帝國議會召集、際勵精ニ付銀盃一組ヲ賜フ	賞勳局
今年六月九日	秋田山形新潟富山石川福井高取島根山口福岡佐賀長崎熊本十三縣へ出張ヲ命ス	常商水産
今年十月十四日	臨時博覽會評議員被仰付	同
今年七月七日	中國及四國地方へ出張ヲ命ス	同
今年八月十五日	神戶縣下へ出張ヲ命ス	同
今年十月廿六日	特旨ヲ以テ位一級被進	宮内省
今年三月八日	農商工高等會議臨時議員被仰付	内閣
今年六月廿九日	法典調査會委員、職ヲ奉シ盡力不怠ニ付	同
八月十五日	銀杯一組ヲ賜フ	同
八月十五日	鹽業調査會會長被仰付	同

貴族院

全 辛酉年一月二十日	明治九年六月三陸海嘯、際宮城若手青森縣下罹災者、金十圓救恤候改寄特ニ付、為其賞木杯一箇下賜候事	賞 勳 局
全 九月十日	明治九年六月三陸海嘯、際宮城若手青森縣下罹災者、金十圓救恤候改寄特ニ付、為其賞木杯一箇下賜候事	賞 勳 局
分 辛酉年六月十二日	明治三年第二回水産博覽會開設、際濱查官長ト為リ職務ニ題魁シ其勞勲ナカラス依テ其賞員トシテ銀杯一組下賜候事	同
分 辛酉年一月十九日	第五回内國勲業博覽會評議員被仰付	内 閣
分 辛酉年十一月廿九日	第五回内國勲業博覽會審査第三部長被仰付	同
分 辛酉年三月二十日	法典調査會委員被免	同
分 辛酉年十月十四日	授旭日重光章	賞 勳 局
分 辛酉年六月十四日	博覽會評議員被仰付	内 閣
全 今年四月一日	叙勳一等授瑞寶章	賞 勳 局
全 明治三十七年	勳一 等 瑞寶章ヲ授テ賜フ	同
全 今年五月三十日	法律取調委員被仰付	内 閣
全 今年六月六日	日本大博覽會評議員被仰付	同
全 今年四月十九日	日英博覽會評議員被仰付	同
全 今年四月十六日	明治三十七年戰役、際報國、旨意ヲ以テ出征軍人家族遺族及廢兵救護、為ニ帝國軍人援救會ヲ經テ、金二百圓寄附候改寄特ニ候条、為其賞木杯一組下賜候事	同
全 今年十月十日	本年有御奈川縣鑛會出土木基奉獻產下シ、金百圓寄附候改寄特、為其賞木杯一組下賜候事	同
大正 元年八月一日	明治四十五年勅令第五十六號、旨ニ依リ	同

貴族院

大正 二年 三月 廿七日	韓國併合記念章ヲ授與セラル 法律取調委員職ヲ奉シ盡力勤カラス	賞勳局
同上	依テ金杯一組ヲ賜フ	同
同上	願ニ依リ貴族院議員ヲ免ス 依願錦鶏間祿被免	宮内省

貴族院

丙
一三ノ一

立案大正十四年一月九日
決裁大正十四年二月八日

宗秩寮總裁



案

從三位勳一等村田保

特旨ヲ以テ位一級被進
從三位勳一等村田保

從三位

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記並
辭令ハ進テ可及回送候也

大正十四年一月九日

宗秩寮總裁

農商務大臣





一 氏之元 益 下 右 白 保

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正七年一月十日

宗秩親政侯爵徳川頼倫
意方 以之 以

宮内省

裏面白紙

114